

## 資料編

・調査票

厚生労働省「平成22年度老人保健健康増進等事業」  
介護労働者の労働環境改善等に関する調査研究事業

事業所・施設調査票

Q1. 貴事業所の基本的な事項について教えて下さい(該当する番号に○印、あるいは該当事項をご記入下さい)。

法人の種類	1. 民間法人 2. 社会福祉協議会 3. 上記2以外の社会福祉法人	4. 医療法人 5. NPO (特定非営利法人) 6. 社団法人または財団法人	7. 協同組合 (農協、生協等) 8. 地方自治体 (市町村) 9. その他 ( )
貴事業所名			
ご記入者およびご連絡先	※調査結果報告書を送付の際、あるいは記載内容の確認などを行う際の連絡を目的に使用いたします。 ご住所: 〒 - (都・道・府・県) ご担当者名: 様		
介護報酬算定上の地域区分	1. 特別区 2. 特甲地 3. 甲地 4. 乙地 5. その他 ( )		
事業開始時期	1. 昭和・2. 平成 年		
貴事業所もしくは施設の従業員数 (平成22年9月1日現在)	介護職員の職員数	正規職員 (パート、アルバイト等を除く)	名
	介護職員以外の職員数	正規職員 (パート、アルバイト等を除く)	名
	貴事業所の職員総数	名	貴施設の運営法人全体での職員総数 名
併設事業の有無	貴事業所・施設には併設する他のサービスはありますか ( 1. ある→右記欄へ 2. ない )	※該当する併設サービスに○印をつけて下さい。	1. 訪問系サービス 4. 施設入所サービス 2. 通所系サービス 5. 地域密着型サービス 3. グループホーム・特定施設入居者生活介護 6. 居宅介護支援
	貴事業所・施設の運営法人には他のサービスはありますか (貴事業所・施設の併設サービスを除く)。( 1. ある→右記欄へ 2. ない )	※該当するサービスに○印をつけて下さい。	1. 訪問系サービス 4. 施設入所サービス 2. 通所系サービス 5. 地域密着型サービス 3. グループホーム・特定施設入居者生活介護 6. 居宅介護支援
売上規模	貴法人の平成21年度における収支状況を教えて下さい。 ※ 数値は概数で結構です。		百万 千 1) 介護事業収入 000 円 2) 経常利益 000 円 3) 介護事業費用に占める人件費の割合 約 %

Q2. 貴事業所・施設の正規ならびに非正規の介護職員のうち、昨年度1年間に離職された方はどれくらいいますか。

1) 正規職員 : 昨年 (平成 21 年) 4 月 1 日現在職員数 名 このうち本年 (平成 22 年) 3 月 31 日までに離職した職員数 名  
2) 非正規職員 : 昨年 (平成 21 年) 4 月 1 日現在職員数 名 このうち本年 (平成 22 年) 3 月 31 日までに離職した職員数 名

Q3. 貴事業所・施設の福利厚生について下記の第1欄から第3欄のSQ1-1からSQ3までの各設問について教えて下さい(該当する欄番号に○印をつけて下さい)。

現状および将来展望	現状について			将来の展望 第3欄
	第1欄	第2欄	第3欄	
福利厚生制度項目	SQ1-1. 貴事業所・施設で実施している制度について○印をつけてください (いくつでも)。	SQ1-2. このうちパートやアルバイト等でも利用可能な制度に○印をつけてください (いくつでも)。	SQ2. 事業所・施設で実施されている制度で廃止したい制度について○印をつけてください (いくつでも)。	SQ3. 今後、貴事業所・施設で新たに導入したい、あるいは拡充したい制度について○印をつけてください (いくつでも)。
1. 寮や社宅の入居制度	1	1	1	1
2. 住宅家賃の補助	2	2	2	2
3. 食事施設の設置もしくは食事の金銭補助	3	3	3	3
4. 退職金制度	4	4	4	4
5. 財産形成の援助 (財形制度、確定拠出年金など)	5	5	5	5
6. 施設内託児所 (保育所) の設置	6	6	6	6
7. 子育ての費用補助 (ベビーシッターや民間託児所利用など)	7	7	7	7
8. 人間ドックの費用補助	8	8	8	8
9. メンタルヘルス・体の悩みなどの相談窓口の設置	9	9	9	9
10. お祝い金やお見舞金、死亡の際の弔慰金など	10	10	10	10
11. 職員懇親会 (慰労会や忘年会など) の実施	11	11	11	11
12. スポーツや趣味のサークル活動	12	12	12	12
13. 生活相談 (法律、税務、財産形成、生活設計など)	13	13	13	13
14. 公的資格取得のための補助金制度	14	14	14	14
15. 勉強会 (コミュニケーションや資格取得などの学習) の開催	15	15	15	15
16. 余暇施設の利用 (保養所、民間旅館や運動施設など)	16	16	16	16
17. 飲食店、書籍や日用品の割引購入制度	17	17	17	17
18. 職場を通じた民間保険への加入サービス	18	18	18	18
19. その他 ( )	19	19	19	19
20. 現在行っている制度はない →Q9へ	20	20	20	20



Q4. 貴事業所・施設で実施している福利厚生制度について、外部の福利厚生サービスなどを利用していますか(該当する項目の番号すべてに○印をつけて下さい)。

1. 福利厚生の全部を外部の専門会社に任せている。
2. 福利厚生の一部を外部の専門会社に任せている。
3. 自治体や公益団体が実施する中小企業向けのサービスを利用している。
4. 退職金制度について外部機関の制度を利用している。
5. その他 ( )
6. 外部の福利厚生サービスは利用していない。

Q5. 職員に福利厚生を行う目的は何ですか(該当する項目の番号すべてに○印をつけて下さい)。

1. 職員の長期勤続の維持と定着のため。
2. 優秀な新卒者を採用するための PR。
3. 優秀な人材を中途採用するための PR。
4. 事業所・施設に対して職員に愛着を持ってもらうため。
5. 事業所・施設の職員のやる気を維持、あるいは高めるため。
6. 事業所・施設と職員との雇用関係の安定化を図るため。
7. 事業所・施設としての社会的責任を果たすため。
8. 社会保障制度(公的な制度)の不足を補うため。
9. 他事業所・施設との差別化を図るため。
10. 職員の働く意欲を高め、介護サービスの質の向上を図るため。
11. 職員の家庭生活を安定させて安心して働けるようにするため。
12. 職員の職場での不安を低減させて安心して働けるようにするため。
13. 職員の職場への一体感の形成のため。
14. その他 ( )
15. 特に目的はない。

Q6. 前問(Q5)で○をつけた項目のうち、最も重視した項目は何番ですか(1つ選択)。  番

Q7. 職員に福利厚生を行って得られた効果はありますか(該当する項目の番号すべてに○印をつけて下さい)。

1. 職員の長期勤続の維持と定着が図られた。
2. 優秀な新卒者を採用できた。
3. 優秀な中途採用者を採用できた。
4. 事業所・施設に対して職員が愛着を持つようになった。
5. 事業所・施設の職員のやる気を維持、あるいは高めることができた。
6. 事業所・施設と職員との雇用関係の安定化を図ることができた。
7. 事業所・施設としての社会的責任を果たせた。
8. 社会保障制度(公的な制度)の不足を補うことができた。
9. 他事業所・施設との差別化を図ることができた。
10. 職員の働く意欲が高まり、介護サービスの質の向上につながった。
11. 職員が家庭生活に不安なく安心して働いてくれるようになった。
12. 職員が職場での不安を抱くことなく安心して働いてくれるようになった。
13. 職員の職場での一体感が形成された。
14. その他 ( )
15. 特に効果はない。

Q8. 前問(Q7)で○をつけた項目のうち、最も重視した項目は何番ですか(1つ選択)。  番

Q9. 貴事業所・施設における福利厚生に対する考え方に近いものはどれですか(該当する項目の番号すべてに○印をつけて下さい)。

1. 職員には福利厚生よりも賃金で還元する。
2. 福利厚生に費用をかけるよりは、その分少しでも多くの職員を採用してサービス体制を強化する。
3. 福利厚生は経営上、大きな費用負担である。
4. 福利厚生は職員への投資である。
5. 1つの事業所で福利厚生に取り組むには限界があるので、業界団体による制度が必要である。
6. 1つの事業所で福利厚生に取り組むには限界があるので、公的支援による制度が必要である。
7. 福利厚生によって他の事業所や施設との差別化を図ることができる。
8. その他 ( )

Q10. 労務管理に関する次の事項のなかで、貴事業所の課題となっていることはありますか(該当する項目の番号すべてに○印をつけて下さい)。

1. 介護職員が定着しない。
2. 人材の確保が困難である。
3. 介護職員のメンタル面での負担が高まっている。
4. 介護職員のモチベーションが高まらない。
5. 職場の一体感が形成されない。
6. その他(具体的に: )
7. 特に課題はない。

Q11. 介護職員の離職予防や定着促進のための取り組み、あるいは、労働条件の改善、向上のために取り組んでいること、また、これから取り組もうとしていることなど、具体的に記入してください(自由記述)。


以上、ご多忙中、ご協力を頂き誠に有り難うございます。

本アンケートに関する問い合わせ先  
社団法人 企業福祉・共済総合研究所 担当: 秋谷(あきや)  
電話: 03-5776-1421 FAX: 03-5776-1423  
E-mail: master@riebe.or.jp

介護職員調査票

本調査は、厚生労働省『平成22年度老人保健健康増進等事業』の採択を受けて実施するもので、介護労働者の皆様が安心して働ける労働環境を確保するための福利厚生改善に重点を置いて、厚生労働省へ施策提言するための基礎資料となる調査です。

今回、事業所長・施設長より「職場のリーダー格の介護職」、「正規雇用の介護職」、「非正規雇用の介護職」のそれぞれから1名の方をお選び頂き、ご回答をお願いいたしております。なお、皆様の回答内容は勤務先に知れわたることのないように、ご回答頂いたこの調査票は、同時に配布された「回収用封筒」に封入したものを各事業所・施設において回収を頂くようご協力をお願いいたしております。

つきましては、ご多忙のなか大変恐縮ですが、ご協力の程よろしくお願いたします。

Q1. 区分、性別、年齢などについて教えてください(あなたが該当する番号に○印をつけて下さい)。

区 分	1. 職場のリーダー格の介護職員	2. 正規雇用の介護職員	3. 非正規雇用の介護職員
性 別	1. 男性 2. 女性		
年 齢	歳		
扶養家族の有無	※ 現在、あなたの扶養となっている同居のご親族すべてに○印をつけて下さい。 1. なし 2. 配偶者(妻もしくは夫) 3. 子 4. 父母(配偶者の父母も含む) 5. 祖父(配偶者の祖父も含む) 6. 兄弟姉妹		
住 居 形 態	1. 持家 2. 借家(賃貸住宅)		
現在 従 事 して いる 主 な 業 務	※ あなたが主として従事しているサービスはどれですか(複数のサービスを併設している事業所で、複数のサービスを兼務している方は、直近1ヶ月程度のうちで、最も長い時間従事したサービス1つに○をつけてください)。 1. 「訪問介護」等の訪問サービス 2. 「通所介護」等の通所サービス 3. 「グループホーム」または「特定施設入居者生活介護」 4. 入所施設サービス 5. 地域密着型サービス		

Q2. 現在(平成22年9月1日現在の)法人での勤続年数は何年ですか(該当する番号に○印をつけて下さい)。

1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上

Q3. 現在、勤務している法人以外で、介護の仕事に従事していたことはありますか(該当する番号に○印をつけて下さい)。

1. ある → Q4へ 2. ない → Q5へ

Q4. 他の法人での期間を合わせて、介護の仕事に従事している期間は、通算しておよそ何年になりますか(該当する番号に○印をつけて下さい)。

1. 1年未満 2. 1年以上3年未満 3. 3年以上5年未満 4. 5年以上10年未満 5. 10年以上

Q5. 介護以外の仕事に従事していたことはありますか(該当する番号に○印をつけて下さい)。

1. ある 2. ない

Q6. あなたは、今後も介護サービス業界で仕事を続けたいと考えていますか(該当する番号1つに○印をつけて下さい)。

1. 続けていきたい  
2. どちらかといえば続けていきたい  
3. どちらともいえない  
4. どちらかといえば続けていきたいくない  
5. 続けていきたいくない

Q7. あなたは、今後も現在勤務されている法人で勤務を続けたいと考えていますか(該当する番号1つに○印をつけて下さい)。

1. 続けたい 2. どちらかといえば続けたい 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば続けたくない 5. 続けたくない

Q8. あなたは、介護サービスの仕事を続けていくなかで、どのような目標やキャリアイメージを抱いていますか(該当する番号すべてに○をつけてください)。

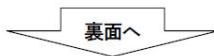
1. 介護サービスの技術を高めたい  
2. 利用者に寄り添い、心から喜ばれるサービスを提供したい  
3. ユニットリーダーやフロアリーダーとして、責任ある仕事をしたい  
4. 生活相談員や介護支援専門員として、ソーシャルワークやケアマネジメントの仕事をしたい  
5. 経営幹部となって、介護ビジネスを経営する仕事をしたい  
6. 自ら起業して理想とする介護サービスを実現したい  
7. その他 ( )  
8. 特になし

Q9. 前問(Q8)で○をつけた項目のうち、あなたが最も重視する項目は何番ですか(1つ選択)。  番

Q10. あなたが介護サービスの仕事を続けていくうえで、支障になると考えていることはありますか(該当する番号すべてに○をつけてください)。

1. 結婚や出産、育児のために、生活と仕事を両立できないこと  
2. 家族の介護のために、生活と仕事を両立できないこと  
3. 親族の転勤があり、転居しなければならないこと  
4. 賃金水準が自分の希望に達しないこと  
5. 労働時間、休日、休暇が希望どおりにならないこと  
6. 職場の福利厚生が十分でないこと  
7. 職場の運営方針や経営理念が自分の考えと合わないこと  
8. 職場の人間関係がうまくいかないこと  
9. 自分が描いていた期待どおりの職場ではないこと  
10. 体力的に長く勤められそうにないこと  
11. 仕事がついの賃金水準が低く、割に合わないこと  
12. キャリアアップのために、仕事を離れて学校等に行く必要があること  
13. その他 ( )  
14. 特に支障となることはない

Q11. 前問(Q10)で○をつけた項目のうち、あなたが最も重視する項目は何番ですか(1つ選択)。   番



Q12. 現在あなたが有している資格等があれば教えて下さい(該当する番号すべてに○印をつけて下さい)。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 介護福祉士            | 6. 1～5以外の介護・福祉関係の資格を有している。                 |
| 2. ホームヘルパー1級        | 7. 介護・福祉関係以外の国家資格を有している。<br>(具体的な資格：_____) |
| 3. ホームヘルパー2級        | 8. 特に資格はない(ア.今後取得する予定 イ.今後も取得する予定なし)。      |
| 4. 介護職員基礎研修修了       |  |
| 5. 介護支援専門員(ケアマネジャー) |  |

Q13. 現在あるいは将来の生活に関する次の事項について不安を感じますか(該当する番号すべてに○印をつけて下さい)。

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 生活に必要な所得の確保             | 10. 住宅購入のための資金準備や購入後のローン返済 |
| 2. 介護の仕事が続けていくための体力の維持     | 11. 自分の将来の仕事の確保            |
| 3. 自分や家族が病気・ケガのときの経済的負担    | 12. 配偶者や両親の介護              |
| 4. 自分や家族が亡くなった際の遺族の生活資金の確保 | 13. 自分が要介護状態となったときの介護      |
| 5. 自分や家族の結婚費用の準備           | 14. 自分の現役時代の心身の健康          |
| 6. 子どもの教育費用の確保             | 15. 自分の老後の心身の健康            |
| 7. 老後の生活資金の確保              | 16. 家族と過ごす時間の確保            |
| 8. 収入の伸び悩みや不安定化            | 17. 特に不安はない                |
| 9. 安定した住宅の確保               | 18. その他(_____)             |

Q14. 前問(Q13)で○をつけた項目のうち、最も不安に思う項目は何番ですか(1つ選択)。  番

Q15. あなたの勤務する職場の福利厚生について下記の第1欄から第3欄の間について教えて下さい(該当する欄番号に○印をつけて下さい)。

	現状について			将来への希望
	第1欄	第2欄	第3欄	
	Q. あなたの職場で行われている制度に○印をつけてください(いくつでも)。	Q. あなたが職場で利用したことがある制度について○印をつけてください(いくつでも)。	Q. 今後、あなたの職場に導入してほしい、あるいはさらに充実してほしい制度について○印をつけてください(いくつでも)。	
1. 寮や住宅の入居制度	1	1	1	
2. 住宅家賃の補助	2	2	2	
3. 食事施設の設置もしくは食事の金銭補助	3	3	3	
4. 退職金制度	4	4	4	
5. 財産形成の援助(財形制度、確定拠出年金など)	5	5	5	
6. 施設内託児所(保育所)の設置	6	6	6	
7. 子育ての費用補助(ベビーシッターや民間託児所利用など)	7	7	7	
8. 人間ドックの費用補助	8	8	8	
9. メンタルヘルス・体の悩みなどの相談窓口の設置	9	9	9	
10. お祝金やお見舞金、死亡の際の弔慰金など	10	10	10	
11. 職員懇親会(慰労会や忘年会など)の実施	11	11	11	
12. スポーツや趣味のサークル活動	12	12	12	
13. 生活相談(法律、税務、財産形成、生活設計など)	13	13	13	
14. 公的資格取得のための補助金制度	14	14	14	
15. 勉強会(コミュニケーションや資格取得などの学習)の開催	15	15	15	
16. 余暇施設の利用(保養所、民間旅館や運動施設など)	16	16	16	
17. 飲食店、書籍や日用品の割引購入制度	17	17	17	
18. 職場を通じた民間保険への加入サービス	18	18	18	
19. その他(_____)	19	19	19	
20. 現在の職場には制度がない →Q18へ	20	20	20	

Q16. あなたの職場で導入している福利厚生の利用経験や利用できる制度があることに対してどのように思われますか(該当する番号すべてに○印をつけて下さい)。

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 心身がリフレッシュできる。         | 9. 働く意欲が高まる。         |
| 2. けがや病気などの不安がやわらぐ。      | 10. 仕事と家庭生活との両立ができる。 |
| 3. 生活費が節約できる。            | 11. 家族との快適な生活に役立つ。   |
| 4. 職場に親しみが持てる。           | 12. 資格取得に役立つ。        |
| 5. 職場への信頼感が高まる。          | 13. 仕事に集中できる。        |
| 6. 職場に対する満足感を得られる。       | 14. その他(_____)       |
| 7. 職場の仲間と親しくなれる。         | 15. 特になし。→Q18へ       |
| 8. 職場と職員との一体感を感じることができる。 |                      |

Q17. 前問(Q16)で○をつけた項目のうち、最も効果を得られた項目は何番ですか(1つ選択)。  番

Q18. 職場あるいは業界に対して福利厚生制度へのご意見、今後、望むことに関して、具体的にご記入ください(自由記述)。


以上、ご多忙の中、調査にご協力を頂き誠に有り難うございます。ご回答の頂いた調査票は、「回収用封筒」に封入のうえ、事業所長・施設長にお渡し下さい。

<p>本アンケートに関する問い合わせ先          社団法人 企業福祉・共済総合研究所          担当：秋谷(あきや)          電話：03-5776-1421 FAX：03-5776-1423          E-mail: master@riebe.or.jp</p>
--